

知事による福井県の中学校訪問について

○視察日 平成27年6月2日（火）

○視察先 福井県永平寺町立松岡中学校（全校生徒数322人（1学年4学級））

1 福井県の学力を支える基盤

- (1) チームで取り組む
- (2) きめ細かな指導の充実
- (3) 共に学び、高め合う教師集団

2 福井県における具体的な取組**(1) チームで取り組む****ア 中学校における「縦持ち」（※学年をまたいで教科を担当）の実施**

3年間の見通しをもった指導ができるとともに、教科担当者間で授業の進捗や内容の情報交換等を行うことにより、若い教員とベテランの教員が互いに刺激を受け、質の高い授業につながっている。

イ チームで行う学力調査の分析等

全国学力調査のサンプル結果（小中500件ずつ、7～8%）をスピード感を重視して分析している。学力調査の分析や県独自の学力調査の問題作成に現場の教員が参加することで、改善点等について共通理解が図られている。

ウ 「横のつながり」を重視した月一回の会議の開催

毎月、市町教育長会、校長会、教頭会、教育委員会（指導主事）などを開催し、横の共通理解を図ることが、県全体での学力の向上等に有効に機能している。

エ 保護者や地域住民との連携

平成19年より全小中学校（268校）において福井型コミュニティスクールを実施している。

オ 福井大学教職大学院との連携

現職教員が勤務校で大学教員と協働研究を実施している。

(2) きめ細かな指導の充実**ア 県独自の少人数教育を推進**

平成16年度から県独自の少人数教育を推進しており、中学校を中心に順次学級編制基準を下げていく方向で取り組んでいる。

（中学校1年生30人 中学校2年生・3年生32人）

イ 独自の学力調査の実施（昭和26年度～継続）

小学校5年生、中学校2年生の全児童生徒を対象として、小学校4教科（国語、算数、理科、社会）、中学校5教科（国語、数学、理科、社会、英語）で県独自の学力調査を実施している。

ウ 2つの学力調査を活用した指導改善

全国学力・学習状況調査（4月実施）と県学力調査（12月実施）による学力の検証改善サイクルの確立し、指導の改善を図っている。

エ 学力向上に向けた「教育情報フォーラム」の活用

県独自の学力調査によって課題を明確にし、その課題に対するリトライプリントを作成、提供することにより、授業改善等を図っている。

（3）共に学び、高め合う教師集団

ア コア・ティーチャー養成事業

校内研究の中核となる教員をコア・ティーチャーに指名し、学校全体の授業研究をマネジメントしている。県の指導主事が原則月1回（年間10回）学校訪問を行うとともに、校内研究の事前研究会から指導主事が参加し、助言等を行っている。

イ 授業名人制度

分かりやすい授業により優れた実績をあげている教員を「授業名人」に任命し、初任者や若手教員に対する指導・助言を行っている。

3 永平寺町立松岡中学校の具体的な取組

（1）教員の共通理解にたった学習指導

授業研究を活発に行うとともに、学習の習慣等を身につけさせる授業規律や、宿題の提出の仕方、やり方等について学年会や教科会を定期的に開催して共通理解を図り、1年生の最初からきめ細かく指導している。

（2）ドリルコンテストの開催

出題範囲を限定した漢字コンテスト、計算コンテスト、英語のスペルコンテストを実施し、必要に応じて放課後に補習を行うことなどにより、生徒が満点を取れることを通して達成感を持たせる工夫をしている。

（3）授業の展開等について

授業の最初に前回の既習事項を確認してから授業に入る等、生徒達が安心して授業にのぞむことが出来る展開の工夫をしたり、教員が毎朝宿題をチェックして、子ども達の達成度を確認し、授業に活かしたりすることに努めている。

（4）自主研究会への積極的な参加

すべての教員が、校内の教科会、学年会以外に、主に平日の放課後等に県や町の自主研究会等に自主的に参加し、研鑽に努めている。

4 三重県で参考となる取組例

- 授業規律の徹底（共通理解）
- 教員同士の「横の連携」を強くする仕組み作り（地域における自主研究会への支援等）
- 子どもたちが達成感を持てる機会づくり
- 学力調査や県独自の学力調査に係るスピード感を持った結果の分析と活用

知事による秋田県の小中学校訪問について

- 視察日 平成27年6月25日（木）
- 視察先 秋田県由利本荘市立西目小学校
（全校児童数334人（各学年2学級 特別支援学級2学級））
秋田県由利本荘市立西目中学校
（全校生徒数163人（各学年2学級 特別支援学級1学級））

1 秋田県における学力向上に向けた取組**（1）あきた型授業スタイルの統一**

ア 【導入】めあて・課題→【展開】一人学び・学び合い→【終末】まとめ・振り返り評価

県内すべての小・中学校で統一したスタイルで授業が行われている。

イ “揺さぶり”のある展開部

授業の展開部で、ペアやグループでの話し合いをさせたり、効果的な発問をしたりすることで、子どもの思考を揺さぶり、県の重点である“「問い」を発する子ども”の育成をめざしている。

ウ 板書とノート指導

基本的な板書のルール（学習のポイント、一時間の流れが分かる配置等）を統一して実践している。ノートは、見開き2ページを基本に、課題は赤で囲むなど書式を統一し、一時間の学習の流れをまとめるようにしている。

問題文などは、ノートに張り付けることができる大きさに教師が印刷して配布することで書く時間を短縮し、考える時間に回すよう工夫している。

（2）学力調査を活用した授業改善

ア 全国学力・学習状況調査の分析

各校で解答用紙をコピーして自己採点を行い、80%の学校から結果が県学力向上支援Webに入力される。6月末頃には県の分析結果が提供されることで、各校において早期の授業改善や個別指導が可能となっている。

イ 検証改善サイクルの構築（県学習状況調査、単元評価問題等の活用）

全国学調で浮き彫りになった県の課題に応じた問題を12月実施の県学習状況調査に出題し、それを各校で自己採点することにより改善状況を把握している。各学校では、調査の成績のためではなく、子どもたちのための授業改善を図る手立てとしてこれらを活用している。

（3）顔が見える同僚性

ア 全県指導主事等連絡協議会

県教委指導主事、市町村教委指導主事、教育専門監が年2回集まって開催している。

第1回（4月）では、本年度の重点に基づく共通実践事項の設定を行い、第2回（12月）では、本年度の実践の評価と次年度の重点の設定を行っている。

重点及び共通実践事項が県教委と市教委で共有されるため、学校現場において県と市によるダブルスタンダードにならず、新しい施策が提示された時も、現場の抵抗感が少ない状態で取り組み、成果の検証を行うことができる。

イ 教育専門監

国、算・数、理、英の教科指導に卓越した力を有する教員を市町村教委が推薦し、県教委が審査・認定している。平成18年度から制度運用が始まり平成27年度は市町村に33名在籍している。教育専門監は、本務校及び近隣の兼務校（2、3校）でTTによる授業実践や、市町村各種研修会等の講師などを行っている。

ウ 教科指導CT（コア・ティーチャー、中核教員）

国、算・数、理の教科指導に優れた教員を市町村教委が推薦し、県教委が審査・認定している。平成26年度から、県北、中央、県南の3地区に各教科小・中学校に2名ずつ配置されている。CTは各地区教科研修会での授業提示、教科指導の情報提供や支援を行っている。各教科指導CT養成研修会では、各小・中学校の教科主任等が2年に1度悉皆で、CTの授業を参観し協議を行っている。

（4）少人数学習を推進

小学校1～5年生及び中学校1年生では30人程度の学級編制を行い、小学校3～6年生及び中学校では基本3教科（小：国算理、中：数理英）において20人程度の少人数授業教員加配を実施している。

（5）家庭学習の定着

各教科の宿題とは別に、各児童生徒がノートを準備し家庭学習を行うよう指導している。低学年の保護者向けに手引きを作成・配布している市町村もある。

2 由利本荘市における学力向上に向けた取組

（1）全国学力・学習状況調査の活用

ア 市学力対策委員会による自己採点

学校の負担軽減と採点のばらつきを抑えるため、国語と算数・数学の専門教員等で組織した市学力対策委員会採点委員会により採点を実施している。中学校の問題の採点には、高校の教員が加わっている例もある。各小中学校では、本委員会とは別に独自に採点を行い、授業改善につなげている。

（2）顔が見える同僚性

ア 由利本荘市授業実践研究会

由利本荘市校長会が中心となり、市内を南・北・東の3ブロックに分け、その中で持ち回りで授業公開を行い、その実践的な研究から授業力の向上を目指している。

イ 市授業力向上訪問

国語、算数・数学、理科、英語について、年度の中で一度も県教委の指導を

受けていない学校に、市教委が学校訪問を行い、授業研究会を通して4教科の指導力の向上に努めている。

ウ 30会（さんまるかい）

佐々田教育長の提案により、毎月30日の勤務時間終了後に実施している研修会で、毎回、教員や指導主事、約50～60人が自主的に参加している。著名人や指導主事、研究主任が講師として発表することもある。

(3) 開かれた学校づくり

ア 保護者や地域住民との連携

今年度で、市内の全小中学校がコミュニティ・スクールとなっている。

3 由利本荘市の小中学校の具体的な取組

(1) 由利本荘市立西目小学校の具体的な取組

ア 自己採点会

教員がペアになり採点を行っている。その際には、採点により明らかになった傾向と対策をホワイトボードに書き出し、そのまとめを写真に撮り直ちに共通理解を図っている。

イ 単元モデルを基にした単元構想会

提案授業のための指導案検討会の前に、単元構想会を持つことにより、専門外の教科であっても単元のねらいや位置付けを共通理解することができ、全教員が当事者意識を持って授業研究を行うことができる。

ウ 話合いのルール

低・中・高学年別に設定した発表時の基本的な話型(わけい)を、教室に掲示するなどして、学び合い活動の充実に活かしている。

エ 授業スタイルの統一

授業の最初に問題を提示して問題の場面を確認した後、本時の課題を児童に考えさせ主体的な学びを意識させる「つかみタイム」、自分一人で考える時間「自分タイム」、小集団(3人)や全体で話し合う「つなぎタイム」、学びを振り返る「まとめタイム」という統一した授業スタイルで取り組んでいる。

そこでは、「型にはめて安心せず、わくわく感のある授業展開」を図っている。

オ 3人の小集団による学び合い

授業の「【展開】学び合い」の場面では、3人の小集団による活動を位置づけている。前を向いたまま、各自のノートを重ねて見比べながら考えや疑問を出し合う活動が容易にできることから、3人集団を取り入れている。

カ 学力向上に向けた組織的な取組

校長は、常に研究主任との話し合いを行い、市小中学校長会の学力向上に関する部会での情報等も共有しながら、授業改善の取組を進めている。また、教員一人一人が改善方法等についての具体的な意見を出し合い、研究主任がまと

める流れを重視し、主体的な研究に結びつけている。なお、教員には、授業改善に関して少しハードルを上げた目標設定を求めている。

研究主任は、自らの授業をとおり具体的な取組方の共通理解を図っている。

(2) 由利本荘市立西目中学校の具体的な取組

ア 授業づくりマニフェストの作成

授業づくりにおける留意点を九か条にし、年度当初に生徒及び保護者に配布するとともに、このマニフェストを基に、生徒会が「授業の心得 立志十か条」を作成している。

イ ゆさぶりのある学習過程の工夫

学習過程を構築する中で、生徒の心を大きく動かす発問を工夫し、課題意識を高めたり、学び合いを活性化させたりしている。

ウ TTの実施

各学年の数学、英語、体育、総合でTTを実施している。T2には他教科担当が入ることで、生徒のつまずきの把握や別の面の理解に効果が見られる。ただし、県学習状況調査の結果を基に、1年生数学及び2年生英語では教科担当2人によるTTを行っている。

エ 学力向上に向けた組織的な取組

校長が学力向上に向けた取組の方針を明確に示すとともに、関係資料等を教職員に配布していることや、教頭や研究主任から校長の方針を具現化するための具体的な指示がなされていることが、学校全体としての組織的な学力向上の取組に結びついている。

教職員にとって、市や県の指導主事が身近な存在であり、支援が受けやすい体制があることも、組織的な取組を進めるうえで有効に機能している。

4 三重県で参考となる取組

- 授業スタイルの統一
- 子どもの思考を“揺さぶる”学び合いのある授業づくり
- 顔が見える関係、共通理解を持って取り組む体制づくり

西目中学校 授業スタイルの基本型

西目中学校		西目小学校	
授業の流れ		言語活動の例	
導入	<p>導入</p> <p>学習課題（疑問型・活動型）の設定</p> <p>予想・見通し</p>	<p>・提示された資料等について、感じ取ったことを発表する。</p> <p>・疑問から生じた課題を発表する。</p> <p>・予想・見通しが可能な場合は発表しあう。</p>	
	<p>自力思考</p> <p>学び合い</p> <p>考えを 発表しあう → 比較・検討 整理・判断 → 考えを 集約する</p>		<p>つかみタイム</p> <p>○問題の題意を捉える</p> <p>○課題をつかむ</p> <p>○解決（方法・見当）の見通しをもつ</p>
展開	<p>まとめ （学習課題の解答・学び深まったこと）</p>	<p>・課題についての自分の考えをノートに書く。</p> <p>・自分やグループの考えを説明する。</p> <p>・他の考えを聞いて、質問したり評価したりする。</p> <p>・互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを発展させる。</p>	
	<p>振り返り評価</p> <p>次時の確認</p>		<p>自分タイム</p> <p>○自分の力で考える</p> <p>つなぎタイム</p> <p>○小集団での学び合い</p> <p>↑ ↓</p> <p>○全体での学び合い</p>
終末		<p>・学習課題の解答や学び深まった考えを、ノートに記述したり論述したりする。</p> <p>・学習課題を解決できたか確認し、改善点などを書き留める。</p>	<p>まとめタイム</p> <p>○今日の学習についてまとめる（論述）</p> <p>○摘要問題</p> <p>○振り返り</p>

- 【共通実践事項】
- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1 ベルとともに授業を開始し、授業を終了する。 | 4 生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。 |
| 2 本時のつけたい力を明確にする。 | 5 教える内容を簡潔・明瞭にする。（計画的な板書、ノート指導） |
| 3 学習課題（赤枠）、まとめ（青枠）を明示する。 | 6 家庭学習の習慣化を図り、授業と関連付ける。 |

西目中学校 授業スタイルの基本型（教科名：国語）

西目中学校		西目小学校	
授業の流れ		言語活動の例	
導入	<p>導入</p> <p>学習課題（主に疑問型）の設定</p> <p>予想・見通し</p>	<p>・疑問から生じた課題を発表する。</p> <p>・提示された資料等について感じ取ったことを発表する。</p>	
	<p>自力思考</p> <p>学び合い</p> <p>考えを 発表しあう → 比較・検討 整理・判断 → 考えを 集約する</p>		<p>つかみタイム</p> <p>○問題の題意を捉える</p> <p>○課題をつかむ</p> <p>○解決（方法・見当）の見通しをもつ</p>
展開	<p>まとめ （学習課題の解答・学び深まったこと）</p>	<p>・題材文や既習事項をもとに、課題について自分の考えを書く。</p> <p>・自分やグループの考えを説明する。</p> <p>・他の考えを聞いて、質問したり評価したりする。</p> <p>・互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。</p>	
	<p>振り返り評価</p> <p>次時の確認</p>		<p>自分タイム</p> <p>○自分の力で考える</p> <p>つなぎタイム</p> <p>○小集団での学び合い</p> <p>↑ ↓</p> <p>○全体での学び合い</p>
終末		<p>・学習課題の解答や学び深まった考えを、書いたり発表したりする。</p> <p>・学習課題を解決できたか確認し、改善点などを書き留める。</p>	<p>まとめタイム</p> <p>○今日の学習についてまとめる（論述）</p> <p>○摘要問題</p> <p>○振り返り</p>

西目中学校 授業スタイルの基本型 (教科名: 社会)

西目中学校		西目小学校
	授業の流れ	言語活動の例
導入	導入 (資料の提示, 前時の復習)	<ul style="list-style-type: none"> 提示された資料から疑問や気付いたことを発表し合う。 既習事項などを生かし, 学習課題に対する予想・仮説を立てたり, 学習の見通しをもったりする。
	学習課題 (主に疑問形の課題とする)	
展開	予想・仮説・見通し	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対しての自分の予想・仮説を検証するため, 資料を活用して調べ, 自分の言葉で表現する (書く, 説明するなど)。 他者との意見交換をして考えを深め, 対立している意見の合意を目指して話し合い (効率や公正の視点を中心とする) をし, 集団の意見をまとめる。
	自力思考 (資料の活用)	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【対立】 個人の考え 意見の発表</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【効率・公正】 複数での話し 合い</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【合意】 考え・意見の 集約 (結論)</div> </div>	
まとめ (本時の学習課題に対する答えや学習過程で深めた自分なりの考えを自分の言葉でまとめる)	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対する答えや, 学習過程で考えたことを自分の言葉で表現し, 発表し合う。 	
終末	振り返り評価	<ul style="list-style-type: none"> まとめタイム ○今日の学習についてまとめる (論述) ○摘要問題 ○振り返り
	次時の確認	

西目中学校 授業スタイルの基本型 (教科名: 数学)

西目中学校		西目小学校
	授業の流れ	言語活動の例
導入	導入 (主に問題の提示)	<ul style="list-style-type: none"> 提示された問題等について感じ取ったことや疑問に思ったことなどを発表する。 疑問等から生じた課題を発表する。 既習事項を振り返りながら, 予想・見通しを発表し合う。
	学習課題 (主に疑問型) の設定	
展開	予想・見通し	<ul style="list-style-type: none"> 課題についての自分の考えをノートに書く。 互いの考えを伝え合い, 自らの考えや集団の考えを発展させる。 「は・か・せ (早く, 簡単に, 正確に)」を基準にして, よりよい考えや解法を比較・検討する。
	自力思考	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">考えを 発表しあう</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">比較・検討 整理・判断</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">考えを 集約する</div> </div>	
まとめ (学習課題に対するまとめ・学び深まったこと)	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対するまとめや問題の解答, 学び深まった考えを, ノートに記述したり発表したりする。 学習課題を解決できたか確認し, 改善点などを書き留める。 	
終末	振り返り評価	<ul style="list-style-type: none"> まとめタイム ○今日の学習についてまとめる (論述) ○摘要問題 ○振り返り
	練習問題 (基本・発展・深化)	
	次時の確認	

板書コレクション① 参考にしてください

○美術 (5/19)

文字のデザイン

学習課題 書体の違いは、何によつて決まるのだろうか。

《レタリングしてみよう》

① 骨組み ② 肉付け ③ 墨入れ

永 明朝体
・横細
・毛筆をもとにして
・ウロコがある

永 ゴシック体
・どとも同じ
・太さ

まとめ
書本は、**太さ**と**元**で決まる

○数学 (5/20)

学習課題

(1) $(x+y+3)(x+y-5)$

	x	y	-5
x	x^2	xy	$-5x$
y	xy	y^2	$-5y$
3	$3x$	$3y$	-15

$= x^2 + 2xy + y^2 - 2x - 2y - 15$

(2) $(a+b+c)^2$

$= (a+b+c)(a+b+c)$

$= a^2 + ab + ac + ab + b^2 + bc + ac + bc + c^2$

$= a^2 + 2ab + b^2 + 2ac + 2bc + c^2$

(3) $(a-b-b)^2$

$a-b=M$ とおく
 $(M-b)^2$

$= M^2 - 2Mb + b^2$

$M = a-b$ に戻す

$= (a-b)^2 - 2(a-b)b + b^2$

$= a^2 - 2ab + b^2 - 2a + 2b + b^2$

別 乗法公式や分配法則を利用して複雑な展開にチャレンジ

$(x+y+3)(x+y-2)$

同じ展開

$(x+y+3)(x+y-2)$

$x+y=M$ とおく
 $(M+3)(M-2)$

$= M^2 + M - 6$

$M = x+y$ に戻す

$= (x+y)^2 + (x+y) - 6$

$= x^2 + 2xy + y^2 + x + y - 6$

カッコの中の項が3つ以上ある時の展開は、面積図を使うか、分配法則を使うか、おまがえる方法がある。

○社会 (5/22)

学習課題 ヒトとサルがちがいは何にあるか

理由 根拠

“サル”である

- 顔のつくり、口元
- 手の大きさ
- 足がヒトとちがう
- 集団で行動
- 毛が多い
- サルの姿(1x2)

視点

- 見ため
- まわりの様子

→ テーマ: “サル”か “ヒト”か

“ヒト”である

- 体のつくりがヒトと一緒
- 二足の足で立っている
- 指の数がヒトと同じ
- 木の棒=道具を使っている
- 周りの骨⇒サルの骨とはちがう

まとめ

サルとヒトは何かちがうか、ヒトにはヒト特有の特徴がある(自分考)

- 顔、性格が異なっている
- しゃべることが出来る

この後も、どんどん紹介していきます。良い板書とはどのようなものなのか、自分なりに考え、工夫して行ってください。

家庭学習ノートの特徴

①自分でめあてを書きます

今日のめあて
政治のしくみをしっかり覚える。

● 法律ができるまで

	衆議院		参議院		
内閣	議長	本会議	議長	本会議	天皇
議員	法律案	可決	可決	成立	公布
	公聴会	公聴会	公聴会	公聴会	

天皇のよき命

● 三権分立

● 国会の仕事で最も大事なものが「法律をつくる」ことです。

● 本会議にかける前に専門の委員会です十分に話し合われます。

● 委員会では、専門家などの意見を聞く公聴会が開かれることもあります。

● 1時間半、集中が途切れず良くがんばったね。

● 区を表したことで政治のしくみがよりわかりましたね。ていねいに書けています。

三権分立のキーワード
おたがいをチェックしあっている。

? 三権分立の良いところは?
(政治の中心は国民であること。)

(3つに分けることにより、)
(力が1つにまとまらないこと。)

②見やすさを意識して、文字は丁寧に書きます。

③自分で振り返りをします。

④家の方が確認してコメントを書きます。